

ルネサンス豊田高等学校の学校評価について（2021年度 学校自己評価：学校運営・教育内容に関するもの）

※評価基準…A：達成できている B：どちらかと言えば達成できている。 C：どちらかと言えば不十分である。 D：不十分である。

分類	評価の観点	評価項目	具体的な評価項目	評価	評価の観点と理由	今後の改善策
学校運営	教育課程	学習指導要領への対応状況	教育課程は学習指導要領の改定に向け、その編成・実施準備を進めているか。	B	・新学習指導要領実施に向け、各教科担当者により内容の精査をし、実施に備えている。	更なる内容の理解、実施方法の精査をしていく。
		教育目標	生徒の学力・体調面など、個々の状況に応じた支援・指導を行っているか。	A	・スクーリングの実施方法をできる限り生徒の事情に合わせ柔軟に対応できる体制を取っている。	
	教職員連携	組織運営	本部及び本校の校務分掌や主任体制などが適切に機能するなど、学校の運営・責任体制が整備されているか。	A	・組織運営や校務分掌、各主任及び主事体制が適切に運用されている。	
		教員・教科間連携状況	教職員間の相互理解がなされ、共有及び信頼関係が構築され、教育活動が行われているか。	A	・SNSを活用しリアルタイムでの生徒対応状況を教員間で共有しながら、その場に応じた対応を取っている。	
		教員と事務職員の連携状況	教員と事務職員の情報交換の機会があり、相互理解及び連携がとれているか。	A	・週に1回3拠点をオンラインで繋ぎ、各部署の情報共有ができる機会を設けている。	
		会議の有効性	職員会議・スクーリング会議などの共通認識・共通理解のもと、有効かつ効率的に機能しているか。	A	・定期的に職員会議や部門会議（進路・生徒指導、事務職会議等）を開催し、情報共有、意見交換の場面設定が行われている。	
	財務関係	学校設置会社の役員及び株式の状況	学校設置会社の役員及び株式の状況が決算短信に記載されている。その状況は学校を運営するにあたり適切なものであるか。	A	・学校設置会社の経営及び財務に関する状況が決算短信に記載されている。その状況は学校を運営するにあたり適切なものである。 ・就学支援金については、適正に執行されている。	
		学校経営に必要な財務等の状況	学校に必要な財務等の状況が決算短信に記載されている。その状況は学校を運営するにあたり適切なものであるか。	A		
		高等学校等就学支援金	高等学校等就学支援金に係る事務を適切に執行しているか。	A		
	施設・設備	面接指導等を実施する施設及び設備	面接指導等を実施した施設・設備が教育上、適切である。施設は学則に記載している。	A	・面接指導等（スクーリング）は、教育特区域内の学校で行われている。また、連携施設では、本校教職員による生徒指導（面接指導以外）、進路指導、学習指導等が適切に行われている。各キャンパスでは生徒が気軽に立ち寄ることができ、相談できるよう体制を整えている。	連携施設における役割（学習支援、課外活動等の内容）の更なる充実・情報の発信を行っていく。
		サテライト施設	サテライト施設では学習面、生活面の支援を行う。施設は学校概要に記載している。	A		
	危機管理	役割分担	事故・事件・災害などに対する連携及び役割分担が明確になっているか。	A	・関係各所（警察・消防・学校医など）の連携はとれている。また事故、事件、災害時の校内体制も整っている。 ・学校内の設備において危険箇所については判明次第、修繕を行っている。 ・個人情報管理については、毎年個人情報保護研修を行い、情報漏洩防止の為、危機管理意識を高める研修を行っている。	
安全管理		学校内の安全点検管理及び諸活動が実施されているか。	A			
危機管理対応状況		危機管理マニュアルに基づき、市役所、警察、消防と連携するなど、安全対策がとれているか。	A			
個人情報管理		生徒情報管理が適切に行われているか。	A			
教育内容・支援	面接指導・添削指導等	スクーリング参加状況	年間スクーリング日程計画に基づいた参加促進を行っているか。	B	・緊急事態宣言発令により年度前半のスクーリングが定員数から6割ほどの実施となったが、実施行程の追加、教育委員会と協議をし対策を実施した。 ・スクーリングの授業内容については、学ぶ楽しさ、発見する喜びを得られるよう、内容・実施方法を工夫し面接指導を行っている。生徒が主体的に参加できるようチームティーチングを実施し、学習のサポートを行っている。 ・生徒の学びが深められるよう添削のフィードバックを行っている。	・精神的、体力的に不安がある生徒への支援体制（生徒指導主事・保健主事を中心）を更に強化していく。 ・様々な課題がある生徒に対して特性に応じ、学ぶ意欲をあげられるよう取り組んでいく。
		スクーリング内容（面接授業）	各科目担当者が創意工夫を行い、生徒の興味・関心・意欲が高められる授業を展開しているか。	A		
		レポート内容・添削	レポートが学習成果につながる内容になっている。インターネットを活用した添削結果のフィードバックをできる限り画一とせず、学習成果を高められるよう取り組んでいるか。	B		
	情報発信	ネット回線の有効活用	生徒対象の「ルネ高マイページ」保護者対象の「保護者マイページ」やブログ、SNSでのタイムリーな情報提供を行っているか。	A	・学校行事の様子を発信する仕組み（教職員によるブログ、SNS）。動画による学校、教職員の紹介した内容は在校生だけでなく入学志願者にも視聴されている。 ・スクーリング参加の際の健康調査票・経路票をネット化し、保護者の「ルネ高マイページ」を閲覧する頻度が高まった。ネットからの質問・相談件数も増え、適宜対応することができている。	
		個人に対する効果的な情報提供	上記「ルネ高マイページ」にて、生徒及び保護者が学習進捗の確認や各分野毎（進路・イベントなど）の情報が閲覧できるようにしているか。	A		
	情報教育	情報能力知識	各種活用能力の知識を向上させられるよう取り組んでいるか。	A	・情報の面接指導では、SNS有効な活用方法や携帯ゲームの危険性に関して重点をおきながら取り組んでいる。 ・教員がSNSを学校のアカウントで運用しており、不適切な内容があった場合の指導・説諭を行っている。	
情報モラル指導		情報発信・公開に伴う責任など情報モラルの教育に取り組んでいるか。	A			
生徒・進路・保健指導	生徒指導	指導方針の一貫性	指導方針に従い、生徒及び保護者の満足度（進級卒業・進路決定など）を高められているか。	B	・スクーリングでは、生徒指導主事、保健主事を中心に共有事項・対応方法を教職員間でスクーリング事前会議時に全体共有をし、指導方針を定めている。 ・生徒対応についてカウンセラー・ソーシャルワーカーからの専門的な研修を実施し、生徒対応方法に取り入れている。 ・生徒だけでなく保護者とも連携を取りながら生徒をサポートし、卒業に向けサポートしている	・スクーリング時の満足度は高く推移しているが、進路決定については課題がある。進路情報の提供方法・進路の説明会などオンラインを活用してより多くの生徒・保護者に提供していく。 ・引き継ぎ保護者を含めた三者面談をオンラインを活用しながら計画的に実施していき、保護者とも良好な関係性を築いていく。
		教員の共通認識と研修	学校組織に基づき、生徒が安全に諸活動ができるよう共通認識にて運営されているか。また、生徒の実態に応じたテーマにて、計画的な研修を実施しているか。	A		
		家庭との連携状況	計画的かつタイムリーな連携をとり、充実した学校生活を送れるよう支援しているか。	B		
		いじめ等の問題行動の未然防止	すべての生徒が安心して学校生活を送れるよう、基本方針に基づき、いじめ対策委員会を設置し適切に運営されているか。	A		
	進路指導	キャリア教育（進路指導）に取組む体制が整備され、生徒の自立に向けた取組みが実践されているか。	B	・希望進路実現（進学・就職）に向け、定期的に面談、弊校のみの大学・専門学校・就職説明会、希望進路別の説明会（オンライン）を実施した。試験対策指導（模擬試験・面接練習）を各キャンパスを活用し実施した。	ひきこもり傾向にある生徒に対して、「とよた多世代参加支援プロジェクト」等の協力を受けながら社会的自立を促していきたい。	
保健指導	健康の保持増進について	心身ともに健康であるための支援（定期連絡やスクーリング時における授業にて支援）が実施されているか。	A	・スクーリング時の特別活動にて、「健康」をテーマとした学習を実施している。特に生活習慣に重点をおき、生徒が健康で規則正しい生活を送れるよう取り組んでいる。		
その他	教職員研修	教職員の資質向上を図るため、計画的な研修を実施しているか。	B	・運営会社からの社会人としての研修・校内研修・カウンセラー、ソーシャルワーカーからの研修を通じ、教職員の資質向上に努めた。	・他校の授業見学など授業展開のスキルなどの研修の機会を持ち資質向上を図りたい。	
	学校関係者評価	「学校運営点検調査」、「豊田市教育特区学校審議会」ほか学校関係者による評価、それぞれの立場・視点から意見を出し合うことを通じ、開かれた学校づくりが進められているか。	B	・今年度は保護者に加えカウンセラー、ソーシャルワーカーにも学校の評価を依頼予定である。評価活動を通じたコミュニケーション、開かれた学校としていきたい。	・評価について学校HPに掲載し、情報公開に努める。	
	他校及び関係機関との連携	姉妹校・他校や自治地区・地域の組織と交流をもち、情報交換等を行い、学校全体の教育力を高められるよう努めているか。	B	・「とよた多世代参加支援プロジェクト」に参加し、生徒の子ども食堂・ボランティアへの参加を通じて交流を深めた。	・様々な組織との連携を通じ、学校全体の教育力の更なる向上に努める。	

校長	教頭	事務長
		